

## 院長ごあいさつ

令和4年6月1日で開院7年を迎えました。

昨年のごあいさつでも申しましたが、この2年間は「新型コロナウイルス感染症」に振り回されています。当院は「発熱外来」は設けておらず、直接この感染症に罹患しているかもしれない疑わしい患者さんは来院してこないのですが、今回の「第6波」ではより身近に迫ってきていると感じました。と申しますのも当院では感染対策として受診患者さんはもちろん付き添いの方にも全員マスク着用と入り口での手指アルコール消毒、そして検温と感染症に関する問診票記入を徹底しています。その問診票を見ますと「第5波」にくらべ「第6波」では過去に患者さん自身が罹患したり濃厚接触者となったと記載される方が少ないないながらも目にするようになってきました。毎日の新聞での県内および厚木市の新規患者数の動向からも頷けます。ワクチン接種もついに4回目をとの動きもありますが、一刻も早く治療法の確立が待たれるところです。

さて片頭痛治療におきましては昨年春に画期的な治療薬が登場しました。これは片頭痛発症を抑制する注射薬です。片頭痛の痛みの原因となる神経伝達物質の1つに対するモノクローナル抗体薬です。1か月に1度注射するだけで1か月間その効力を発揮するという薬です。すでに片頭痛発症を予防する目的の飲み薬は数種類ありますが、いずれも今回の注射薬とは異なり痛みの原因物質そのものをブロックするというものではないため満足のいく効果が得られず、患者さんの苦痛の軽減につながらないこともありました。注射薬の効果は明らかにこれまでの飲み薬より上回っていますが、注射であるということや薬の値段が高価であるということからなかなか多くの患者さんに拡まっていないのが現状です。注射薬登場から1年が経過し全国から様々な治療成績や知見が集まりつつあります。いずれにしても片頭痛患者さんにとっては本当に朗報ですので、この薬を用いた方が良いかどうかの見極めを私の方でしっかり行っていきたいと思えます。

当院の診療理念は「患者さんがいなく病気の不安を笑顔にかえる」ということです。この理念は7年たっても変わりません。これからも初心を忘れず私たちスタッフ全員も笑顔で対応してまいりますのでどうかよろしく願いいたします。

令和4年6月1日

つぐ脳神経外科・頭痛クリニック  
院長 継 淳